

事前評価書

年度	令和6年度
整理番号	

事業名・路線名等	交通安全事業 主要地方道 豊後高田安岐線 田染横嶺工区		事業主体	大分県
所在地	<small>フンゴタカダシ コダワラ</small> <small>フンゴタカダシ タシブ ヨコミネ</small> 豊後高田市小田原～豊後高田市田染横嶺			
事業概要	事業の目的	歩道未設置区間において歩道を整備し、歩行者等の安心安全な通行空間を確保する。		
	事業内容	【計画延長・幅員】 L=830m(歩道整備)、W=6.0(9.75)m 【道路区分】 第3種第3級 【設計速度】 V=50km/h 【現況幅員・交通量】 W=6.0(7.5)m 交通量 3,865台/日(平成24年実測) 【重要構造物】 なし		
	事業費	C=300百万円		
事業の実施計画	完成予定年	着手から8年(令和13年度)		
	事業段階毎の実施計画	1年目 路線測量、歩道等詳細設計 2年目 用地測量 3年目 用地補償、本工事 4～7年目 本工事 8年目 本工事		
事業の必要性	必要性・緊急性	・当路線において歩道が未整備の区間は、現在事業中の箇所を除けば豊後高田土木管内では当該区間のみであり、歩行者・自転車が路肩を通行し車両に接触する恐れがある非常に危険な状況にある。 ・上記の理由により豊後高田市からも、県議会土木建築委員会への市町村要望として歩道設置の要望が毎年寄せられている。 ・そのような状況の中、令和4年12月には当該区間において、歩行者の死亡事故も発生しており、早急な対応が求められている。【死傷事故件数 3件(過去10年) うち歩行者1件(死亡事故)】		
	整備効果	歩道の整備により、歩行者や自転車の通行空間を確保し、安全性の向上を図る。		
事業手法・工法の妥当性	費用対効果分析	交通安全事業のため費用便益比の算出は困難であり、現状の事故発生状況、道路利用状況、交通の状況から総合的に判断する。		
	工法の妥当性	・比較検討により、最適な歩道設置案を検討している。 ・現道拡幅による歩道整備であり、既存の道路敷きを活用する計画としている。 ・既存の市道の活用を図り、必要最小限の整備計画としている。		
	コスト縮減	・比較検討により、最適な歩道設置案を検討している。 ・既存の市道の活用を図り、全体事業費の抑制を図っている。		
	環境等への配慮	・比較検討し、地形改変の少ない案を検討している。 ・建設発生土は公共工事間流用を予定している。		
事業実施環境	事業の実効性	県議会土木建築委員会へ豊後高田市から要望書が提出されており、協力体制は整っている。		
	事業の成立性	・道路法第15条に基づき県管理道路として事業を実施している。 ・社会資本整備総合交付金要綱に規定された事業内容、採択要件に適合している。		
	事業の特殊性	一般的な現道拡幅による歩道整備であり、特殊な工法もなく、技術的な難易度は高くはない。		
対応方針	以上のとおり事業の必要性が認められることから、本事業を実施したい。			

事業箇所位置図

